

工場  
試験  
神試

# 茨城・日立に新拠点

## 来月稼働 東日本の依頼増に対応

受託試験会社の神戸工業試験場(兵庫県播磨町)は、茨城県日立市に試験拠点を新設し、9月15日に稼働させる。写真、同社提供。東日本で自動車や航空機関連などの試験依頼が増えているため、播磨町の本社に並ぶ拠点とする。投資額は10億円弱。



新たに導入した試験設備は、金属片に振動を与えて強度を確かめる「疲労試験機」や、大型の電子顕微鏡など。このうち同試験機は金属の試験片を用いる通常タイプを20台新設したほか、建設機械や配管などの実物を対象にできる日本最大級のタイプも設けた。3階建ての試験棟を建設し、

延べ床面積は約2500平方メートル。金属や樹脂などの強度を調べる試験は、あらゆる機械の製造に欠かせない工程だ。同社は1990年、タービンなど電力関連設備の試験を請け負うため、同市内の別の場所に試験拠点を開設した。

しかし、航空機エンジンのIHIや自動車と航空機を手掛けるホンダなど、大手メーカーの生産拠点に近く、試験の依頼が増加。一方で、既存の試験拠点は住宅地にあり、さらなる拡張は難しいと判断して新設を決めた。

神戸工業試験場は47年創業。強度試験用の金属片を加工するほか、機械メーカーなどから各種試験・解析を受託し、独立系の民間試験機関では国内最大手。2014年にも約10億円を投じて本社の試験設備を増設し、社屋を増築している。

(高見雄樹)

神戸新聞 2017年8月15日付 6面掲載

※著作権者及び掲載元の(株)神戸新聞社(神戸新聞)より転載許可取得済  
※無断転載厳禁